

令和六年、浄土宗は開宗八百五十年を迎えます

令和六（二〇二四）年は法然上人（一一三三—一二一二）が浄土宗を開かれて八百五十年目にあたる年です。「南無阿弥陀仏」となれば、すべての者が救われる。善導大師のお言葉（開宗の文）との出会いにその確信を得た上人は、京都・吉水の地（今の知恩院が建つ辺り）でお念佛の教えを弘めました。その教えは八百五十年を経ようとする今もなお脈々と伝えられ、私たちは極楽浄土へと続く確かな道を歩むことができるのです。

いついかなる時でも一心に「南無阿弥陀仏」とお念佛をとなえる。これを毎日繰り返していくことが極楽浄土を叶える確かな修行となる。なぜなら私たちがお念佛をとなえて極楽に往生することこそ、阿弥陀仏の願いに他ならないのだから。

「令和版結縁交名」（別紙）でご縁を結びましょう。

- 手を合わせ「南無阿弥陀仏」とお念佛を十回おとなえしましょう。
- 「令和版結縁交名」（別紙）の「南無阿弥陀仏」もしくは「なむあみだぶつ」を、心をこめてなぞり書きしてください。漢字、ひらがな、どちらでもかまいません。
- ご署名いただきましたら、菩提寺のご住職や行事主催者にお渡しください。

※「令和版結縁交名」は結縁の証として奉納することが目的であり、その他の用途に使用することはできません。

【お問い合わせ】

浄土宗社会部 〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4

電話 03-3436-3351

法 灯 リ レ ー の ご 案 内

浄土宗開宗八百五十年慶讃事業

浄土宗HP



法然上人
浄土宗
開宗850年
お念佛からはじまる幸せ
令和6年

お念佛からはじまる幸せ

法燈リレー

法然上人は比叡山の黒谷にある青龍寺で修行と勉学に励まれたのち、比叡山を下り、東山吉水の地で念佛弘通に尽くされ、そのみ教えは次第に全国へと弘まりました。

当事業は、上人のみ教え（法燈）の尊さを開宗八百五十年を機にあらためてお伝えするため、青龍寺報恩藏の灯を分灯して、お念佛のみ教え（法燈）と仰ぎいただき、青年僧による念佛行脚で、まずは知恩院までお運びし、その後、浄土宗寺院を通じて全国各地、さらには海外の多くの方々にリレーするものです。

皆様のお手元には、「令和版結縁交名」（別紙）としてお届けいたします。

国内外の各教区から各組 寺院・檀信徒へ



青龍寺

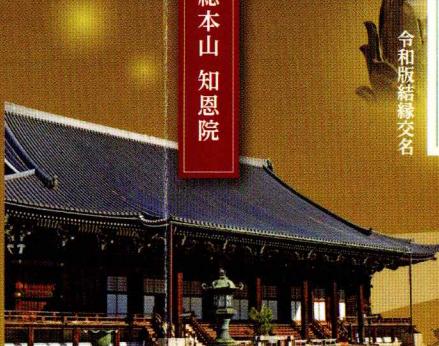
法燈リレー吊灯籠



源智上人造立阿弥陀如來立像（重文）

令和版結縁交名

淨土宗總本山 知恩院



淨土宗總本山 知恩院

法然上人の弟子である源智上人は、法然上人の一周忌にあたり、一体の阿弥陀如來立像を造立し、供養の思いを表されました。そのお像の中には、造立にあたつてご縁を結ばれた四万六千人にのぼる方々の姓名が書かれています。それは、多くの人々が西方極楽浄土に往生することを願い、法然上人のみ教えと縁を結び、感謝の思いでお念佛をとなえた証です。

法然上人が浄土宗を開かれてから八百五十年を迎える今、令和の時代に生きる私たちも、お念佛をとなえ、往時の人々にならつてお名前を記しましょう。そのすべてのお名前を、源智上人造立の阿弥陀如來像の御前に奉納いたします。

この好機に一人でも多くの方にお念佛とご縁を結んでいただきたくご案内申し上げます。